

# 同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局  
School of Health Sciences, Shinshu University  
第18号 2020年10月



## —目次—

川上由行先生 同窓会会長の挨拶	2
濱田州博先生 学長のご挨拶	3
池上俊彦先生 同窓会名誉会長のご挨拶	4
金井誠先生 同窓会名誉会長退任のご挨拶	5
新入教員のご挨拶	6
新型コロナウイルスへの対応	7
保健学科4専攻「卒業生を交えての懇談会」開催	11
活動支援報告	12
卒業生の声	16
総会記録	18
令和元年度事業報告	19
令和2年度事業計画	20
同窓会役員	20
編集後記	20

2020  
第18号

## 信州大学を、保健学科を襲ったコロナ禍の中でのつぶやき

信州大学医学部保健学科同窓会会長 川上 由行  
(信州大学名誉教授／医学部特任教授(研究))

松本市広報・公民館報の編集に関わって何年かが経つ。2月の定例編集会議前の雑談で、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)が話題になった。やり取りを黙って聴いていたが、ここは川上さんに意見を聞かないと、と急に振られた。「大相撲春場所は中止でしょう。春の選抜高校野球も無理だろうし、夏の東京五輪も中止でしょう」。全員がビクビクして「じゃあ、終息はいつ頃になりますか?」と聞かれ、「終息しないと思います」と返した。「来年も、再来年になっても終息しないと思います」。これには全員が、『それはありえない』という雰囲気だった。「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は終息せずグローバルに定着し、人間社会を襲い続けるのでは」と話し出した。「一旦は収束に見えても、決して終息はしない」という思いだったが、編集会議の開始時刻になり雑談は尻切れトンボとなった。そして、その続きを話す機会がないまま今に至っている。

COVID-19は保健学科にも多大な影響を撒き散らしている。卒業式・入学式が中止された。ビデオメッセージの同窓会ガイダンスを作成したが、新入生に見てもらえる機会は未だ訪れていない。新入生合宿研修も海外研修も何もかもが中止され、通常の授業にまで影響が及んだ。各種会議もZoomのon-lineで行われ、同窓会総会も初の中止に追い込まれた。

今、『終息の見通しは?』と問われても、「終息すればいいなあ」程度の漠然とした思いしかない。悲観的な見方だが「終息しない」シナリオも準備しておくべき」と、思っている。地球上人類との共存に大成功したSARS-CoV-2との継続的バトルを、私たちは不本意ながら許容せざるを得ないのかも知れない。感染宿主であるヒトに致命的な害を与えれば、自らの子孫を残す術を失ってしまう。SARS-CoV-2は、特に若年層へは大きなダメージを与えず、でも感染力は維持したまま、換言すれば、自らの子孫を残す術を確保しながら、と言う憎ら

しい程の生き残り戦略を獲得したウイルスだと思えます。

長野県は、来年の7年に1度の「善光寺ご開帳」開催を2022年へ延期した。東京五輪も一年延期で来年7月23日を開会式とし、「開催の再延期はない!」とIOCは明言した。安倍首相は来年に延期された東京五輪・パラリンピックを、「人類が新型コロナに打ち勝った証とする」と述べた。でも、本当に開催できるでしょうか? 感染拡大が地球規模で「収束」し、WHOによるパンデミックの「終息宣言」発布が大前提かも知れないのに。ワクチンによる制圧への取り組みがグローバルに浸透していなければ、仮に日本だけの収束では、何の意味もないのに。五輪・パラリンピックは、世界が平和で安定した社会状況の下で初めて開催できるものなのだから。

3月一杯で退任された金井誠学科長に代わって、4月に就任された池上俊彦学科長のもと、こんなコロナ禍の中でも、保健学科が着実に成果を積み重ねていくことを信じ、その進展に対して、保健学科同窓会は精一杯のエールを送り続けます。



# 信州大学医学部保健学科同窓会報 学長挨拶 2020年

信州大学 学長 濱田 州博

信州大学医学部保健学科同窓会の皆様には、日頃よりご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。まずは厚くお礼を申し上げます。

さて、信州大学では、本年4月に「地域中核人材」の養成を目指して、人文科学研究科、経済・社会政策科学研究科、教育学研究科を統合再編し、総合人文社会科学研究科を設置しました。これにあわせて、教職大学院も改組しました。この改組により、大学院は、修士課程が総合人文社会科学研究科、教育学研究科（教職大学院）、医学系研究科、総合理工学研究科の4研究科に、博士課程が総合医理工学研究科の1研究科に集約されました。上位の教育課程にいくほど融合・連携した分野の教育研究が行える体制となり、新たな境界領域における教育研究を活発化させたいと考えております。

ここで、新型コロナウイルス感染症について触れたいと思います。この感染症は、世界中に拡散し、日本でも緊急事態宣言等、様々な対策がとられてきました。信州大学でも通常の卒業式は取りやめ、学生の代表者とごく少数の教職員のみが出席し、卒業証書・学位記を手渡す簡易な式に切り替えました。入学式は中止し、前期の授業についてはWeb講義を中心に行っております。6月からようやく三密を避けた形で実験や実習等を始めております。社会の動きを止めることで感染者数が減少しておりましたが、県をまたいだ移動などが再開されて以降、再び著しい増加に転じております。このような状況でも、保健学科では、実習が不可欠であり、感染に十分注意しながら後期の教育も行っていければと考えております。

一方、コロナ禍は、学生の経済状況に大きな影響を及ぼしています。今回のコロナ禍による家計の急変に対しては授業料免除での対応等の他、アルバイト収入の大幅な減少により修学の継続が困難な学生に対して「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』（10または20万円）が行われたところです。さらに、信州大学独自の支援策として知の森基金内

の「経済支援型奨学基金」を活用した「新型コロナウイルス緊急学生経済支援」（3万円×延べ1,000名）を行います。知の森基金には、8月20日現在で350件のご寄付をいただいております。感謝の念に堪えません。同窓会の皆様には、『知の森基金へのご寄付』をよろしくようお願い申し上げます（<https://www.shinshu-u.ac.jp/research/donation/covide19.html>）。

また、いつになく雨の多い梅雨となり、各地で甚大な被害が出ております。長野県でも、特別警報が出された日もあり、土砂災害等が発生しました。昨年10月に日本に上陸した台風19号がもたらした甚大な被害の記憶が覚めやらぬ中、台風シーズンとなり、コロナ禍での再びの被害に心配は募るばかりです。暑さも尋常ではない夏です。様々な面で明るい日差しが差し込むのを待ちたいと思います。

末筆ながら、信州大学医学部保健学科同窓会に関係する皆様のご健勝をご祈念申し上げますとともに、学生に対するご支援を心よりお願い申し上げます。



## 「同窓会だより」によせて

信州大学医学部保健学科同総会名誉会長 池上 俊彦  
(信州大学医学部 保健学科長／看護学専攻 成人・老年看護学領域 教授)

このたび金井誠教授の後任として、本年4月1日付で信州大学医学部保健学科学科長を拝命いたしました。このようなご挨拶の機会を設けていただきましたことに感謝申し上げます。私は昭和59年に東北大学を卒業し、盛岡市内の病院で3年間外科研修を行い昭和62年信州大学医学部第一外科に入局、幕内教授就任後肝移植に携わってまいり、平成16年からは医療福祉支援センターで信大病院の医療連携や患者相談業務にも関わってまいりました。平成27年から医学部保健学科で教鞭を執っております。

保健学科同窓会の皆様方には平素より在校生の教育および学科運営に多大なご理解とご支援を賜り、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

この度のコロナ禍により学内では主要行事である卒業式や入学式が挙行できないのみならず、学生がキャンパスに一堂に会することが感染リスクと判断され基本的には入構ができなくなり、教員側は学生が在宅で学修できるような体制づくりを求められました。本年度前期は普段なら講義室で行われる対面式の授業はすべて遠隔授業として行われました。インターネット環境や端末に問題がある学生に対しては、学内に視聴あるいは資料のダウンロードのためWi-Fiスポットを設け入構を許可しました。演習、実習、研究については5月末から十分な感染予防対策を行った上で入構して行うことが可能になりました。

学生は授業等だけでなく、会食が禁止され、実習前の感染拡大への移動が禁止され、3密を回避できないアルバイトが禁止されるなど多岐にわたって大きな影響を受けています。経済的に困窮した学生には国や大学としての様々な経済的支援をおこなっており、担任を中心にメンタルを含む様々な相談に対応しています。

学内で例年開催されてきた様々な催し物も中止され、地域保健推進センターの地域貢献活動として市民にも参加いただき大変好評を得ている健康講座も、前期はコロナ禍の影響で中止を余儀なくされて

おり、後期開催も厳しい状況です。言い古されたことですが、普通であることがどれだけ大事かということに身染みて感じております。

さて、保健学科では、昨年度に引き続き南校舎内の教育環境整備を部局重点事業の一つに位置付けて、教育・研究環境を整備中です。また、本年は特にコロナ禍においても学部教育、大学院教育をスムーズに進められるよう体制を整備しております。こうした事業には、同窓会から毎年ご寄付戴いております専攻配分の教育・研究経費も自己財源とさせていただいており、大きなご支援に重ねて御礼申し上げます。

以上のように、本年度はコロナ対策に追われておりますが、保健学科のさらなる発展に尽力していく所存です。同窓会の皆様方には、一層のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い致します。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆様のご健康をお祈り申し上げます。



## COVID-19の保健学科への影響報告と同窓会名誉会長退任のご挨拶

信州大学医学部保健学科 看護学専攻 小児・母性看護学領域 教授 金井 誠

この度、川上同窓会長から、タイトルの寄稿の依頼をいただきましたので、まずはCOVID-19による未曾有の影響につきましてご報告させていただきます。

本年2月初旬から、COVID-19の猛威は長野県にも波及し始めました。卒業生は本当に気の毒で、卒業式も謝恩会も突然に開催できないことになり、晴れの日のためにレンタルした衣装はキャンセルし、学年で揃った卒業記念写真も無く、保健学科学生の学位記は郵送となりました。私も学系長として最後の饞の辞を直接伝えることができず、印刷して学位記に添えました。また、2月～3月は卒業生を中心に、多くの学生達が国内外への旅行を楽しむことが恒例となっていました。大多数の学生達は、楽しみにしていた旅行を泣く泣くキャンセルせざるを得ない状況となりました。また宴会は全て自粛のため、退職教員の送別会も中止となりました。唯一の救いは定年退職教授の最終講義だけは、何とか挙行できたことでした。

しかし4月になっても学生を入校させることができず、新入生は入学式も新入生合宿研修も無く、講義は全てWebで実施する方針となりました。したがって松本を離れ実家で生活する学生も多いようで、同級生と直接会う機会も無いまま、前期が終了してしまった学生が大半と思われます。そして保健学科で毎年継続してきた夏季海外研修の中止など、在校生も大きな影響を受けています。部活動や3密のリスクがあるアルバイトが禁止となり、各種の大会も中止となって、最終学年の部員達は最後の舞台を奪われてしまいました。現在は、ようやく限定的な部活動の再開は許可されましたが、新入部員の勧誘もままならず、課外活動も様変わりしています。前期の講義は全て自宅でのWeb講義でしたが、さすがに実習・演習は不可能なので、緊急事態宣言が終わった後、6月から再開となりましたが、様々な制約の中での教育となっています。

教員も Web 講義の準備に追われ、管理運営業

務も、医学部教授会や学科会議など、多くの会議がZoomというWebを介した会議となっており、生活が一変しています。

以上のように、保健学科では学生も教員も想定外の極めて大変な状況下にありますが、与えられた環境の中で、最大限の教育・研究活動に励むよう努力しておりますので、同窓会の皆様には、より一層のご支援の程、よろしく願いいたします。

最後に、私が保健学科長として同窓会名誉会長の職に就かせていただいた6年間、同窓会の皆様には本当にお世話になりました。無事に退任を迎えられましたのも、皆様方のご協力の賜であります。ここに心より感謝の意を表させていただきます。ありがとうございました。



## 新入教員のご挨拶

### ご挨拶

川田 悠介

(看護学専攻 小児・母性看護学領域)

本年度4月に小児看護学の助教として着任いたしました川田悠介と申します。生まれは四国の香川県で、大学進学をきっかけに本州へ渡り、岡山大学を卒業しました。その後は岡山大学病院に就職し、小児の外科病棟で看護師を9年間経験しました。病棟では、心臓血管外科で先天性心疾患の子どもたちの看護を中心に、肝胆膵外科、脳外科、消化器外科などの手術が必要な疾患をもつ子どもと家族の術前・術後の看護を行ってまいりました。



これまで長野県には縁も所縁もありませんでしたが、人生とは不思議なもので、気が付けば信州大学でお世話になることになりました。香川県や岡山県では釣りを趣味にしており、海があることが当たり前の生活でしたが、海がない県で生活するのは初めてで少し戸惑っております。しかしここ長野県には、これまでに見たこともない雄大な山々が驚くほど身近にあり、引っ越し翌日には人生で一番の降雪を経験しました。これから妻と息子と松本暮らしを堪能していきたいと楽しみにしています。

教員経験はありませんので、長野県での生活に慣れるとともに、しっかりと助教としての任を果たせるように精進していきます。子どもと家族の生活の支援に携わりながら、学生たちが「小児看護をやってみたい」と思えるような関わりを行っていきたいと思っています。皆様にはこれからたくさんお世話になると思いますが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

### 自己紹介

加藤 茜

(看護学専攻 成人・老年看護学領域)

4月より看護学専攻に助教として着任いたしました、加藤茜と申します。長野県に居住したことはございませんが、本籍が長野県であり、信州大学で働けることにご縁を感じております。まだまだ長野県の地理も文化も知らないことばかりですが、少しずつ馴染んでいきたいと思っております。



私は、約10年間救命救急センターで勤務した後、訪問看護ステーションで3年間非常勤看護師として勤務しておりました。その間に、山口大学大学院で修士号、ならびに日本看護協会認定の急性・重症患者看護専門看護師を取得いたしました。救命救急センターも訪問看護も、どちらも一般病棟とは大きくかけ離れた場であり、とても濃密な経験をしてまいりました。教育者として半人前ではありますがこれらの経験を、これから看護の道を歩んでいく学生に少しでも伝えていけたらいいなと思っております。

さて、今般の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の蔓延は、国民の皆さんを不安に陥れると同時に、看護師の役割やその重要性を新たに問い直すものとなりました。COVID-19の終息は現時点ではまだまだ見えておりませんが、これからの日本の社会は様々な面で大きく変貌していくことは必至です。このような状況下において、看護教員として看護師の育成に携わるといふ大きな責任を忘れることなく、私自身も学び、研鑽し続けていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 自己紹介

新井 慎平

(検査技術科学専攻 生体情報検査学領域)

令和2年4月より検査技術科学専攻生体情報検査学領域の助教に着任いたしました、新井慎平と申します。本学を卒業後、信州大学医学部附属病院の臨床検査部で9年間勤務し、この度母校である保健学科の教員として働かせていただくことになりました。このような機会を与えて下さいました諸先生方に心より感謝申し上げます。



臨床検査部では血液検査、尿一般検査、輸血検査、再生医療（先端細胞治療センター）の仕事に従事し、日常業務の傍ら、修士課程では羽山正義先生（2014年御退任）に病理学をご指導いただきました。さらに、日常業務中に遭遇した症例の解析をきっか

けに博士課程では奥村先生（現保健学科教授）にご指導頂き、社会人大学院生として修士（保健学）と博士（医学）を取得することができました。仕事の合間に行う研究は大変なことも数多くありましたが、新知見が得られた時の高揚感や成果を発表することができたときの達成感は何ものにも代えがたい感覚で、これからもこのような気持ちを大事にしながら研究していきたいと思えます。

私自身、臨床、研究、教育のいずれもまだまだ未熟なところではございますが、臨床検査技師の魅力を一人でも多くの学生さんに伝えることができるよう情熱をもって取り組んでいく所存でございます。これまでお世話になりました多くの方々への感謝の気持ちを忘れることなく、少しでも本学の発展に寄与することができるよう努めてまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## 新型コロナウイルスへの対応

### 看護学専攻の動向

看護学専攻主任 奥野 ひろみ

2019年10月より看護学専攻主任を務めております、奥野です。この1年間の動向をお知らせいたします。

10年ぶりの看護基礎教育の改定が2022年度入学生から実施されます。カリキュラム改定のポイントは、ICT活用のための基礎的能力やコミュニケーション能力の充実、臨床判断能力の強化、対象や療養の場の多様化に対応できる力等となっています。そのために本学でも見直しを開始しました。まず看護学専攻教員の全体会を開催し、「どのような人材を育てたいか」「そのためにどのような教育が必要か」をテーマに自由な対話を行い、教育のあるべき姿の確認を行いました。その後、ワーキンググループを立ち上げ、強みと弱み（強化すべき内容）を話し合い、強みをどう維持するか、弱みをどう強化す

るかについて、具体的なカリキュラムに落とし込む作業を行っています。今年度後期には再び全体会を開催し、ワーキンググループの作成案をブラッシュUPし、教育の全体像を示していく予定です。教員間の協力体制により新しいカリキュラムが完成することを楽しみにしています。

3月より新型コロナウイルス感染予防対策を、厚生委員会、教務委員会、実習委員会と連携をとりながら進めています。特に実習に関しては附属病院並びに様々な実習機関の看護職の皆様のご協力により、実施可能な状況を作りあげていただいております。感謝いたしております。残念ながら実習のできない施設も複数出ております。このことに関しましては学内でのシミュレーション教育などで補完をしているところです。今後の感染拡大の状況にもよりますが、学生が少しでも多く実習を体験できるように今後も調整を進めてまいります。

## 検査技術科学の動向

検査技術科学専攻主任 石田 文宏

日頃、検査技術科学専攻の教育・研究には多大なるご理解およびご支援をいただき誠にありがとうございます。また、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のまん延により、同窓会員の皆様におかれましてはさまざまな困難に直面されていることと拝察申し上げます。検査技術科学専攻(以下、検査)も例外でなく、例年とは一変いたしました。ここでは検査での状況の概要をご報告いたします。

COVID-19の影響が明らかになってきた2月下旬から3月の間、4年生の卒業に向けての一連の行事や3年生にとって就職活動として重要な情報収集の機会となる病院見学に関してはなすすべもなく、ほぼ全部が中止となってしまいました。

4月になり新1年生37名が入学しましたが、学生が大学に足を踏み入れる機会は全くなく、オンラインでのやり取りのなか新1年生担任の松田正之教授はZoomによる個別面談を4月中旬よりはじめました。授業はオンラインでスタートし、学生の姿を見ることなく校内も静かなままで時間が過ぎたため、4月下旬になり学生に向けて教員からメッセージを送ることに意見がまとまりました。全教員が一言ずつ述べたのち、故坂本九の名曲「上を向いて歩こう」を平千明助教の伴奏録音にあわせて各人がワンフレーズずつ歌いZoomで収録しました。ちなみに筆者は最初の“うえをむーいて、あーるこお〜う〜”の担当でした。新井慎平助教の絶妙の編集で約10分間の動画にまとめ4月28日にeALPS(信州大学のonlineシステム)にアップロードしました(写真参照)。学生の疎外感が少しでも減らせるよう、またポジティブなメッセージが伝わることを期待しました。学生には概ね好評だったようです。

5月6日もオンラインでの講義でしたが、教員も徐々に慣れ工夫ができるようになりデジタル化とともに例年の講義内容や方法を見直すきっかけになり、教育の質の向上につながった部分もありました。COVID-19やSARS-CoV-2に関する検査法や検査値異常は教材として適宜取り入れられていました。臨床検査総論Iの実習では、学生同時の顔合わせの目的も兼ねて実施され、新入生がはじめて登校し同級生と交流することができました。2、3年生の



実習では3密回避のため内容の変更や複数回実施等で対処し、学修上必須な内容に厳選して行われていました。例年5月開始の4年生の臨地実習は、実習の可否、内容等が緊急事態宣言などで翻弄されましたが、最終的に6月から例年より2週間短縮した9週間の実習として、附属病院臨床検査部及び松本医師会検査センターの多大なる御協力により開始でき、学生ともどもほっとしました。両施設の皆様方にはこの場をお借りして深謝申し上げます。8月には全員実習を終了できました。期末試験も多くはオンラインでの実施となり、急遽、高等教育研究センターの講師によるファカルティ・ディベロップメントを開催して準備、試験を行いました。その評価は中途ですがデジタル化のメリットもあるようで旧来の方略を見直すきっかけとなりました。4年生の就職活動に関しては求人の中止なども見受けられ、また、長野県外との往来にも慎重にならざるをえない状況であり今後も注視し、対策を検討していくことになりそうです。

以上、検査での本年前半の状況を記しました。同窓会員の皆様におかれましてはご自愛いただくとともに、引き続き検査技術科学専攻および保健学科へのご支援を賜れば幸甚です。

## 新型コロナウイルス感染に対する対応

理学療法学専攻主任 百瀬 公人

理学療法学専攻では2月3日から14日まで3年生の臨床基礎実習が県内施設で行われましたが、施設側からもコロナに関する問い合わせなどは無く、実習を行いました。2月28日に文部科学省及び厚生労働省から新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種各学校、養成所及び養成施設等の対応についての事務連絡が発表されました。これを踏まえ、今後の臨床実習についての対応を始めることに

なりました。4年生の臨床実習は新年度4月6日より1期目が始まります。

そこで、3月上旬に1期目の実習先に本専攻の対応(①市井で感染しないよう私生活に十分に注意する。②感染者が発生している都市への不要・不急の旅行は控える。③日常の手洗い、うがい、アルコール消毒を徹底する。④臨床実習におけるスタンダードブリーチの再教育、⑤臨床実習中に咳、発熱など自覚症状のある学生は4日間の出席停止とする。)を説明するとともに施設側からの学生への要求について問い合わせを行いました。この時点においては4月から臨床実習が行える予定でしたので4月2日に附属病院感染対策制御室の金井先生より実習前の講義をしていただく予定でした。3月中旬を施設側からの回答の締め切りとしておりましたが、実習施設からは体温を計測すること、緊急事態宣言の出ている都道府県からの移動については2週間の自宅待機を求めるなどがありました。帰国者の発症等の報道も増え、また東京をはじめとする都市圏の感染者の増大もあり、謝恩会は中止、卒業式も代表者のみというさみしい年度末になりました。

4月に入ると臨床実習施設より、実習を受ける事ができないという連絡をいただくようになりました。実習を行うために代替施設を手当てする対応を行っておりました。大学としても、入学式を中止し、講義はWEBを利用した形へ、臨床実習は4月13日から開始という方針になりました。臨床実習の開始日は、その後の感染拡大の状況を踏まえ、5月11日開始へと変更されました。そこで専攻としては、臨床実習開始日の変更に伴い短縮した期間の実習を施設へお願いしました。本専攻では2年前より診療参加型臨床実習を行っており、短縮された期間においても臨床実習を実施できる体制ができていたことは良かったと思います。最終的には臨床実習の開始日は5月25日となったため、1期目の臨床実習はすべて中止とし、学内演習で対応することになりました。学内演習の内容としてはこれまでに学んだ知識の復習(国家試験対策含)、臨床実習に関する文献抄読に加えて、学生は3グループに分かれて次の3分野のうちの一つの演習を行いました。運動器系(青木、北川、杉本)、神経系(木村、横川、小宅)、内部障害・小児系(百瀬、西澤、野寫)のグループ演習では、6週間で評価、臨床推論、治療な

どに関する演習を実施しました。この時点では2期目、3期目の実習が行えるか不明であったため、すべての臨床実習ができない場合に3期合わせて学生は3分野の演習ができるように企画しました。

前期の講義科目が全面的にWEB利用になったため、学内のWEBシステムであるeALPSを用いて講義資料や課題、オンデマンド教材の配布を行うこととしました。また、一部の演習科目は対面で実施しましたが、マスク着用の上、アルコール消毒などの感染対策を実施しました。講義はZoomを利用した双方向会議システムを利用することとし、理学療法専攻で5アカウントの利用許可をいただき実施することになりました。試験はWEBでの実施、レポートなどとして行い、実技試験を夏休み期間中に実施することとしております。また、4年生の臨床実習は2期目は全ての学生が行う事ができました。3期目は就職活動などの県外移動を伴う学生1名が実習を行えず演習となりましたが、数名の学生が一部機関を演習で代替しております。

世界的に新型コロナウイルスによる感染は終息しておらず、後期および来年度へ向けてこの体験を活かして対応を進めているところです。

---

## 新型コロナウイルス感染予防対策

作業療法学専攻主任 小林 正義

---

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による作業療法教育への影響は甚大である。2月28日に医学部より提示された「新型コロナウイルスによる臨床実習の制限について」を遵守し、学生に対する指導を徹底してきたが、長野県下におけるCOVID-19が報告され、緊急事態宣言の対象区域となったため、第I期(4月6日～5月29日)に予定していた4年生の臨床実習(23施設)は全て中止となり、教員が担当する学内でのwebシステムによる代替演習に切り替えることとなった。

この間、学内では学生の入構を禁止し、自宅(松本)または実家で待機させ、次の①～⑦の指導を徹底させた。①県を越えた移動の禁止(就職活動を含む)、②アルバイト及び不要・不急の市内外出および集合の禁止、③日常生活における感染予防対策の徹底(手洗い、外出時のマスク着用等)、④緊急事態宣言解除以降に実家から松本に戻る際には実習開



始の2週前までに戻る、⑤Web講義の受講（講師：金井信一郎・信州大学医学部附属病院感染制御室）、⑥Web掲載資料によるスタンダード・プリコーションの学習（教員が資料提供）、⑦「臨床実習前体調及び行動確認票」の作成およびwebシステムによる体温測定管理。

1年生は、入学以来一度も集合する機会がもてておらず、専任教員の担当する授業のなかでZoomミーティングを開催し、自己紹介と相互交流の時間を設けた。授業は全てオンラインで行い、eALPSを活用した遠隔授業に終始した。9月24日にHbワクチン接種があるため、来校を機に、1年生と教員の初めての顔合わせを計画しているところである。

2年生、3年生は、学内で行う実習・演習科目が多く、大幅な縮小と代替演習への変更を余儀なくされた。検査・測定や面接技術等を修得する実習は、マスクとフェイスシールを着用させ、手指消毒と3密回避を徹底し実施した。3年生は通年で大学病院での評価実習が組まれているが、一部を除きwebを介

した代替演習に切り替えた。

4年生も4月以降一度も大学には来ていない。第Ⅰ期目の臨床実習は中止となり、第Ⅱ期（6月15日～7月31日）と第Ⅲ期（8月11日～9月25日）についても、COVID-19の影響によりそれぞれ7施設、3施設での実習が中止となった。このため急遽、代替施設に受け入れを打診し、なんとか全ての学生が第Ⅱ期と第Ⅲ期の臨床実習を経験できることとなった。ご協力いただいた臨床実習施設には、この場をお借りして深謝申し上げます。現在、4年生は実習中の就職活動の困難さに直面しているが、これらは全国的な課題でもあるため、焦らないよう指導している。

COVID-19による実習や演習の制限が専門職教育に及ぼす影響については、時間をかけて評価していく必要がある。一方で、学生の主体的な参加やレスポンスなど、遠隔授業や代替演習によって得られた成果もあり、今後、専門教育の在り方を検討する際には、方法論の一つとして積極的に取り入れていきたい。



## 保健学科4専攻「卒業生を交えての懇談会」開催

令和元年10月16日（水）午後、4専攻別に「卒業生を交えての懇談会」を行いました。専門職として社会経験を積んだ保健学科卒業生を招き、在学生に向けたメッセージを伝えてもらいました。職業人としてどのような経験を積んできたのか、学生時代に学んだ中で重要な科目は何か、学生生活をどのように送ってきた

か、在学生の皆さんに今後どのような学生時代を過ごしてもらいたいかな等について講演してもらいました。卒業後の様々な経験は大変刺激になったことと思います。

卒業生の皆さん、お忙しい中ご協力いただき、本当にありがとうございました。

### 看護学専攻

大文字真知子さん	平成25年度卒業	(信州大学医学部附属病院)
高橋 竣也さん	平成27年度卒業	(こころの医療センター駒ヶ根)
松崎ちはるさん	平成27年度卒業	(丸の内病院)
常田 萌子さん	平成28年度卒業	(松本市役所)

### 検査技術科学専攻

青木美那海さん	平成29年度卒業	(北アルプス医療センターあづみ病院)
森田 温さん	平成25年度卒業	(飯田市立病院)
北川真奈美さん	平成25年度卒業	(磐田メイツ睡眠クリニック)
山田 修さん	平成27年度卒業	(岡崎市立愛知病院医療技術局)

### 理学療法学専攻

伊藤 悠紀さん	平成22年度卒業	(富士見高原病院)
林 寛人さん	平成21年度卒業	(伊藤超短波株式会社)
津田 由佳さん	平成23年度卒業	(伊那中央病院)

### 作業療法学専攻

大塚 りささん	平成21年度卒業	(北アルプス医療センターあづみ病院)
若林あゆみさん	平成22年度卒業	(安曇野赤十字病院)
岩井龍之介さん	平成27年度卒業	(信州大学医学部附属病院)

## 活動支援報告

### 2019年度同窓会からの補助による実習設備の充実

2019年度の補助金は理学療法学専攻および作業療法学専攻で南校舎の教室・実習室の施設整備、機器備品の購入に充てさせていただきました。

写真に示すトイレ・洗面ユニット、キッチンユニット、車椅子（リクライニング型、自走型、介助型）、医療用電動ベッド（介助バー含む）、簡易型移乗リフ

ト、洗濯機を購入いただき、早速学生の講義や実習などに使用しております。また、その他トランスファーボード、ラップボード、ポータブルトイレ、コミュニケーションエイドなどの購入に使用させていただき、授業で活用させていただいております。



▲トイレ・洗面ユニット



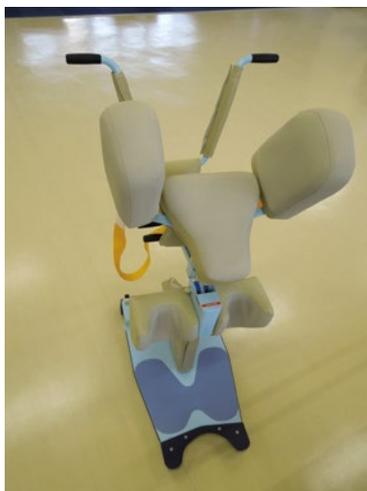
▲キッチンユニット



▲車椅子



▲医療用電動ベッド



▲簡易型移乗リフト



▲洗濯機

## 松永保子教授・深澤佳代子教授 最終講義

令和2年3月10日(火)、3月17日(火)

令和2年3月末をもって、看護学専攻 松永保子教授と深澤佳代子教授が退職されました。3月10日(火)に松永先生最終講義「With Education of Nursing Science : 看護学教育とともに」、3月17日(火)に深澤先生最終講義「One of Life Stories : “看護専門職

とは何か”を自問し続けた日々」が、地域保健推進センター 3階多目的講義室にて行われました。当日は学内・学外関係者大勢の方々のご参加をいただきました。



▲松永保子教授



▲深澤佳代子教授

## 卒業祝賀会

令和2年3月16日(月)

感染症対策のため、予定していたまつもと市民芸術館での卒業式は中止となりました。写真撮影および卒業証書・学位記授与式の実施も中止となりました。

保健学科では令和2年3月16日(月)保健学科中校

舎二階大会議室にて、各専攻の成績優秀学生4名の表彰と卒業証書授与式を行いました。各専攻主任と担任が列席しました。金井学科長および教員と各専攻の成績優秀学生のみなさんです。



▲写真前列左から 看護学専攻・池高未来さん 検査技術科学専攻・岡部日菜子さん  
理学療法学専攻・小幡愛斗さん 作業療法学専攻・白鳥菜美さん

## 大学院修了者名簿

令和元年度の大学院修了者のうち博士後期課程修了者は7名で、学位論文は以下の通りでした。

- ・高枝 果奈 さん  
Reliability and acceptability of using a social robot to carry out cognitive test for community-dwelling older adults  
(地域在住高齢者へのコミュニケーションロボットによる認知機能検査の信頼性と受容性)
- ・植松 明和 さん  
Relationship between Sympathetic Nerve Activity Evaluated by Pulse Rate Variability and Blood Pressure Early in the Morning in Sleep Disordered Breathing  
(脈拍変動によって評価した交感神経活動と睡眠呼吸障害における早朝血圧との関係)
- ・山口 大輔 さん  
Assessment of Depressive Tendency, Coping Strategies, and Type D Personality in Japanese Patients with Coronary Artery Disease  
(日本人の冠状動脈疾患患者における抑うつ傾向、コーピング方略、およびタイプDパーソナリティに関する検討)
- ・齋門 良紀 さん  
Correlation between radiographic sagittal alignment, range of motion, muscle strength and quality of life in adults with spinal deformities  
(成人脊柱変形患者の単純レントゲンにおける矢状面アライメント、関節可動域、筋力、生活の質の相関関係)
- ・武市 尚也 さん  
Comparison of impedance measured by the forced oscillation technique and pulmonary functions, including static lung compliance, in obstructive and interstitial lung disease  
(閉塞性肺疾患及び間質性肺疾患における肺コンプライアンスと多周波強制オシレーション法を用いた呼吸インピーダンスとの関係)
- ・岩波 潤 さん  
Brake Operation and Palmar Perspiration Reflect Older Adult Drivers' Ability to Predict Hazards : Driving Simulation Research  
(高齢ドライバーの危険予測能力を反映するブレーキ操作と手掌部発汗：ドライビングシミュレータを用いた研究)
- ・堀 敦詞 さん  
Characterization of galactosyl and lactosyl sulfatide species in human serum by MALDI-TOF mass spectrometry  
(マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型 (MALDI-TOF) 質量分析によるヒト血清中ガラクトシルスルファチド分子種とラクトシルスルファチド分子種の特徴付け)

新型コロナウイルス感染症が蔓延していることを鑑み、本年度は市民公開講座としての実施を中止致しました。

代わりにオンライン動画配信形式を活用して、「ふすまの向こうがわ ～ひきこもる彼らと私のもの

のがたり～」をテーマに、山梨県中北保健福祉事務所ソーシャルワーカーの芦沢茂喜先生による講演を行いました。これは学生・教職員向けの講演として、sALPSでの期間限定配信（6月26日（金）～7月2日（木））となりました。

信州大学医学部保健学科・保健学科同窓会主催講演会

## ふすまの向こうがわ ～ひきこもる彼らと私のものがたり～

講師

**芦沢 茂喜 先生**

山梨県 中北保健福祉事務所  
ソーシャルワーカー  
(精神保健福祉士・社会福祉士)



配信方法

eALPS (コース「【保健学科】ガイダンス・連絡事項」内)

動画配信期間

2020年6月26日(金) 0:00 ～7月2日(木) 23:59

## 卒業生の声

### 「近況報告」

佐藤 優香／看護学専攻 8 期生

受験で初めて松本を降り立った日のこと、自然の豊かさや澄み切った空気に、故郷の北海道に似たものを感じ、足取りが少し軽くなったことを今でもよく覚えています。卒業後は、北海道札幌市にある病院で助産師として4年半勤務しました。ハイリスクが集まる病棟で、まさに出産は命がけであることを実感する日々でした。

昨年1月からはJICA海外協力隊として、北アフリカに位置するモロッコで、母親学級の普及や妊婦健診の質の向上のための支援を中心とした母子保健活動を開始しました。十分な医療資源はなく、大学の授業ぶりに使用するトラウベ聴診器。言葉の壁や日本の常識とはかけ離れた環境に戸惑い、無力感を感じるが多かったものの、私の拙い現地語を真剣に聞いてくれ、ケアを受け入れてくれたモロッコの妊産婦さん達の「シュ克蘭（アラビア語でありがとう）」という言葉と笑顔に幾度となく救われました。

現地での生活にも慣れ、活動も軌道に乗り出した今年3月、COVID-19の影響を受け、突然の帰国が決まりました。喪失感で溢れる日々の中でも、「今できることを」とオンラインでの育児相談事業に有志と取り組みました。3密回避と言われている昨今ですが、今こそ心と心が寄り添ったケアが必要であると実感しました。



▲活動先のスタッフと勤務終了後に

信州大学で助産の礎を学び、臨床に出てからはさらに助産師という職業の奥深さとやりがいを感じています。今後も自身の目標に向かって、一步ずつ進んでいきます。

### 「近況をご報告します。」

森田 温／検査技術科学専攻 10 期生

テーマの新型コロナウイルス対策とは関係ありませんが、今年の5月24日に入籍いたしました。相手は同じ病院で働く独特なヘアスタイルの臨床工学技士です。新型コロナウイルスの影響で挙式や新婚旅行などの予定は全く立てることができておらず、今後の先行きにも不安を感じておりますが、こんな状況の中でも明るい彼女のおかげで毎日を楽しく過ごすことができています。何時になるかはわかりませんが、医療従事者同士の結婚ということもあり、完璧な感染症対策を敷いた結婚式を挙げられればと考えております。日高先生をはじめ、大変お世話になった先生方、また同級生の皆様への報告も遅れてしまい申し訳ありませんでした。今後ともよろしく願いいたします。

写真は、結婚とは全く関係ありませんが、長臨技飯田下伊那支部主催の感染症イベントにて「手洗い王子」として、子供たちに正しい手洗いの指導をした時のものです。



### 「近況報告」

阿部 裕一／医療短期大学部 20 期生

世界中に猛威を奮うCOVID-19、いわゆる新型コロナウイルスの感染拡大により、都道府県を跨ぐ不要不急の移動が制限されるなど、あっという間に私たちの生活が一変しました。私は大学教員として勤務しており、大学での状況を少しお話しできればと思います。

4月から勤務する大学では学生の登校が禁止さ

れ、講義はゴールデンウィーク後からの開始となりました。実技科目を含めた全てがオンラインとなり、その準備に右往左往する日々からのスタートとなりました。

入学式は中止、1年生にはタブレットを配布し簡単なオリエンテーションを実施しました。その後は自宅等からオンラインで講義を受講する毎日となりました。友達がいな中での大学生活で不安を訴える学生も何名か出てきており、学生面談をオンラインで実施し、不安解消に努めることが必要でした。

教員側はテレワークも推奨される中、短期間でオンラインへの移行を求められましたが、「今までの講義をそのままオンラインで実施する」という考えからの脱却に苦勞しました。

7月からは少しずつ規制が緩和され、学生の登校も可能となりました。この記事が発行される時には、よりよい方向に向かっていることを願います。

同級生や同窓生の方の多くが働かれる医療現場では日々ストレスを抱えることが多いと思いますが、体調を崩されないようにしていただきたいと思います。

このような状況下ではありますが養成校教員としては、一人でも多くの学生を臨床現場に送るための教育を、できる範囲で行っていきたいと思います。



▲エクササイズ動画の撮影風景  
(COVID-19で運動不足になった人向け)

## 「近況報告」

藤森 健仁 / 作業療法学専攻2期生

松本には、卒業してからも時々訪れる機会がありますが、日々変わっていく景色の中にも学生時代の名残があり懐かしさを感じます。

信州大学を卒業し、県内の諏訪中央病院に就職して、早いもので13年目になります。自分の振り返りも含めて、この場で近況報告をさせていただこうと思います。

職場では、急性期や回復期、訪問、介護老人保健施設など様々な分野での経験を積ませていただきました。今では後輩の指導や管理業務も増え、日々試行錯誤しながら業務にあたっています。

また、県士会の仕事として、生活行為向上マネジメント推進委員の仕事に従事しています。平成30年度の作業療法の定義改定において、「作業療法は作業に焦点を当てた治療、指導、援助である」と位置付けられ、活動・参加への関わりがより強調されました。生活行為向上マネジメントは作業療法士が対象者の役割を意識しながら関わるための重要なツールとなるものだと感じています。この作業療法の魅力の詰まったツールを県士会員の皆さんに広げていくことができるように、今後も尽力していきたいと思っています。

近頃は新型コロナウイルス感染症による外出の制限やオリンピックの延期など、気が重くなるニュースが続いていますが、こんな時期だからこそ日々のライフスタイルを振り返り、できることを少しずつ積み重ねていければと思います。来年は明るい話題が増えるように願っています。





## 総会記録

---

### 令和2年度 信州大学医学部 保健学科同窓会総会の中止

SARS-CoV-2 の感染拡大に対し4月16日に緊急事態宣言が発表せられ、延長されたのち5月25日に解除されましたが、収束に至りませんでした。このような状況から、同窓会幹事会を5月22日（金）に開催し、慎重に協議した結果、令和2年度の総会等の開催を中止という判断に至りました。5月25日同窓会HP上に「6月27日（土）同窓会総会および市民公開講演会中止のお知らせ」を掲載致しました（<https://www.mhoken.jp/topics/2020/05/25/1590380643239.html>）。

総会時に協議する審議事項は、5月22日の幹事会で作成した議案書を、6月12日（金）から6月17日（水）までの電子メールによる同窓会理事会で審議しました。その結果、提示した全ての議案に対して、理事全員からの承諾を得ました。これをもって同窓会総会の議決と致しました。

なお、理事各位からは、いくつかのコメント等々を頂戴しました。幹事間で共有し今後の同窓会運営の参考にさせていただきます。

# 令和元年度事業報告

## 1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進  
(シンガポールのシンガポール総合病院、ネパールのスタディツアーの海外研修プログラム、夏期海外プログラム学生受け入れへの支援)
- 3) 特別講演の開催  
・令和元年度 保健学科同窓会特別講演  
期 日：令和元年6月22日(土)  
13:00～15:00  
会 場：信州大学医学部地域保健推進センター3階多目的講義室  
講 師：田中紀子先生  
テーマ：「誤解だらけのギャンブル依存症」
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
- 5) 卒業式・学位記授与式  
・祝賀会補助(新型コロナウイルス感染予防のため中止)  
・卒業記念品の贈呈(集合写真)(新型コロナウイルス感染予防のため中止)  
・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
- 6) 入試広報活動補助  
・オープンキャンパス補助  
・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 7) 学生課外活動支援  
・新入生合宿研修補助  
・学生への課外活動支援
- 8) 学習環境整備  
・学生支援  
理学療法・作業療法学専攻(トイレ・洗面ユニット、キッチンユニット、車椅子、医療用電動ベッド、簡易型移乗リフト、洗濯機、トランスファーボード、ラップボード、ポータブルトイレ、コミュニケーションエイド等の購入)
- 9) 卒業生を迎えるの懇談会(隔年開催)

## 2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻  
……………アルプス会・桐の木会

## 2) 検査技術科学専攻

……………臨嶺会

## 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻

……………州嶺会

## 3. 保健学科同窓会の運営について

### 1) 同窓会ホームページの運営

### 2) 同窓会だより第17号の発行

### 3) 同窓会総会および役員会の開催

#### ①令和元年度総会の開催

・令和元年6月22日(土) 15:15～16:15

医学部地域保健推進センター多目的講義室

#### ②理事会の開催

・令和2年6月17日(水) 18:00～20:00

保健学科中校舎2階会議室

#### ③幹事会の開催

・令和2年2月26日(水) 17:15～19:30

保健学科212講義室

・令和2年5月22日(金) 17:30～19:40

Zoomによる遠隔会議

### 4) 同窓会事務局の運営

### 5) 信州大学同窓会連合会との連携

信州大学同窓会連合会関係:

・令和元年7月21日(日) 9:30～

第30回信州大学同窓会連合会役員会

旭会館3F大会議室(川上会長)

・令和2年2月22日(土) 12:00～15:30

第31回信大同窓会連合会役員会

旭会館3F大会議室(川上会長)

信州大学校友会関係:

・令和元年7月21日(日) 11:30～

信州大学サポーターズクラブ理事会

旭会館3F大会議室(川上会長)

### 6) 信州医学振興会支援

### 7) 信州大学医学部創立75年記念行事

「記念式典で、川上会長に代わって奥村幹事が挨拶／75周年記念誌に保健学科同窓会沿革史を川上会長が執筆掲載」

### 8) 特別会員の最終講義へのお祝い

「松永保子教授／深澤佳代子教授」

# 令和2年度事業計画

## 1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進（シンガポールのシンガポール総合病院、ネパールスタディツアーのプログラムについては中止、招聘講演、夏期海外研修受け入れへの支援）
- 3) 特別講演の開催  
テーマ「ふすまの向こうがわ  
～ひきこもる彼らと私のものがたり～」  
講師：芦沢茂喜さん（精神保健福祉士、社会福祉士）  
新型コロナウイルス感染対策のため、従来の市民公開の講演会は開催せず、学生を対象とする講演の「オンデマンド動画配信」を別途、企画
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
- 5) 卒業式・学位記授与式  
・祝賀会補助  
・卒業記念品の贈呈（集合写真）  
・竹内松次郎賞記念楯（優秀学生表彰）
- 6) 入試広報活動補助  
・オープンキャンパス補助（開催については未定）  
・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 7) 学生課外活動支援  
・新入生合宿研修補助

・学生への活動支援

## 8) 学習環境整備

・学生支援

検査技術科学専攻

## 9) HB抗体検査およびワクチン接種についての補助

## 2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻：アルプス会・桐の木会
- 2) 検査技術科学専攻：臨嶺会
- 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻：州嶺会

## 3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
- 2) 同窓会だより第18号の発行
- 3) 同窓会総会および役員会の開催

### ①令和2年度総会

令和2年度は総会は中止とし、理事会での書面評決をもって総会決定とする

### ②理事会の開催：年1回（5～6月）

### ③幹事会の開催

- 4) 同窓会事務局の運営
- 5) 信州大学同窓会連合会との連携
- 6) 信州医学振興会支援
- 7) 特別会員最終講義のお祝い

## 同窓会役員

名誉会長：池上 俊彦（医学部保健学科）

会長：川上 由行（医学部保健学科）

副会長：松本 早苗（医学部附属病院）

理事：

看護学専攻8名

城井 三奈（医学部附属病院）

松本 恵美（医学部附属病院）

赤池 勝美（医学部附属病院）

白濱 滂（医学部附属病院）

三輪百合子（長野県看護連盟）

坂口けさみ（長野保健医療大学）

内宇田果奈（看護学専攻学生）

上沢 智美（看護学専攻学生）

検査技術科学専攻4名

河野 愛未（検査技術科学専攻学生）

赤羽 貴行（安曇野赤十字病院）

新井 慎平（医学部附属病院）

樋口由美子（医学部保健学科）

理学療法学専攻2名

赤谷 梨緒（理学療法学専攻学生）

杉田 勇（諏訪中央病院）

作業療法学専攻2名

小古井あみ（作業療法学専攻学生）

井戸 芳和（医学部附属病院）

大学院（前期）1名

佐々木友紘（博士前期課程院生）

大学院（後期）1名

黒部 恭史（博士後期課程院生）

幹事：奥村 伸生（医学部保健学科）

中込さと子（医学部保健学科）

下里 誠二（医学部保健学科）

柳澤 節子（長野県看護協会）

百瀬 公人（医学部保健学科）

横川 吉晴（医学部保健学科）

監事：務台 均（医学部保健学科）

木下 愛未（医学部保健学科）

事務局：中山 秀子

## 編・集・後・記

2020年は、3月東京マラソン、4月には中国習近平主席が訪日、8月には2020東京オリンピック・パラリンピック開催、それに伴い海外からの旅行者が訪れ飲食・宿泊・観光業が盛り上がる。他にも様々な業種のイベントが予定されていたはずでした。・・・

今回の同窓会だよりは特集として各専攻長にコロナの影響を寄稿いただきました。記事を拝読すると、この感染症とのつきあいは我々の生活様式を大きく変えてゆくと感じます。そして今も、目の前の患者さんや利用者さん、地域住民の方々のために、臨床現場で奮闘している多くの同窓生に改めてエールを送りたいと思いました。（編集人Y）